

出雲家庭医療学センター
在宅フェローシッププログラム

Ver1.1

出雲家庭医療学センター

大曲診療所

【目次】

- ・ コンセプト
- ・ 教育プログラムの背景
- ・ 概要
- ・ 対象
- ・ 研修期間
- ・ 研修施設
- ・ 指導医
- ・ アウトカム
- ・ マイルストーン
- ・ フェローの課題と評価
- ・ 教育方略
- ・ 処遇
- ・ 応募方法
- ・ 参考文献

後期研修修了の
その先へ！

【コンセプト】

家庭医療・総合診療専門医能力のブラッシュアップ×在宅医療を身につける教育プログラム

【教育プログラムの背景】

65歳以上人口は、3,515万人となり、総人口に占める割合（高齢化率）も27.7%となった。1）これからの日本が高齢多死社会を迎えることは疑いない。その中で地域包括ケアの果たす役割は高く、特に在宅医療はその最も重要な構成要素の一つとなっている。2）

大曲診療所では、2001年より訪問診療と在宅での看取りを実施している。出雲市内で最も長い訪問診療の歴史をもち、家庭医による質の高い在宅医療を提供している自負がある。事務職3名、看護師4名、医師3名で外勤と外来診療もこなしつつ、がん・非がんのターミナル期や神経難病を含む、常時120名前後の多様な患者への365日24時間対応を行っている。

しかしながら、当院は多忙を極める、医療職が疲弊するような職場ではない。むしろ、楽しく活気にあふれた、居心地の良い職場であると言える。

当プログラムは、このようなハイパフォーマンスかつ良好な職場環境を実現している診療所での家庭医療・総合診療技術の向上及び、在宅医療学の知識・技術を修得できる教育を提供する。将来、診療所勤務や在宅診療を視野に入れる家庭医・総合診療医には最適のフェロースhipプログラムだと考える。

【概要】

出雲家庭医療学センター在宅フェロースhipプログラムは、家庭医療後期研修修了者を対象とする、1年間のフェロースhipプログラムである。基本的な研修枠組みは日本在宅医学会の在宅専門医制度に則っており³⁾、最終的には在宅専門医取得を目指す。また、外来や地域活動、後進の指導、毎週の勉強会を通じて、家庭医としての能力向上を目指す。

現時点では日本専門医機構の認定制度とは関連を持たない。

【対象】

日本プライマリ・ケア連合学会認定の家庭医療後期研修、あるいは日本専門医機構認定の総合診療専門研修を修了した、卒後15年以内の医師。

【研修期間】

1年間

※よりじっくり診療所及び在宅医療を学ぶ2年間のプログラムも可能

【研修施設】

出雲医療生活協同組合 大曲診療所（〒693-0011 島根県出雲市大津町1941）

【指導医】

藤原和成(プログラムディレクター): 日本プライマリ・ケア連合学会認定家庭医療専門医・指導医,
日本在宅医学会認定在宅専門医・指導医

藤原悠子: 日本プライマリ・ケア連合学会認定プライマリ・ケア認定医・指導医
日本在宅医学界認定在宅指導医

【アウトカム】

総合診療・家庭医療の診療能力の上に、在宅診療の導入・管理・緩和ケア・看取りを実践できる。

【個別目標】

- ・ 在宅医療の基本的な考え方と経過を理解する。
- ・ 在宅診療の導入にあたって、情報収集、導入期目標の設定、家族を含めたチームビルディングができる。
- ・ 近隣医療機関、施設スタッフ、訪問看護師、ヘルパー、ケアマネ、リハセラピスト、行政職とチームとして協同し、適切なチームマネジメントやリーダーシップを実践できる。
- ・ 在宅患者の健康管理、基本的な在宅手技と医療的介入ができる。
- ・ 在宅患者の家族背景や、介護リソースを評価し、病状と合わせて適切なサービスを提案できる。
- ・ 在宅患者の急性疾患の診断、マネジメントができる。
- ・ 各種疾患の終末期の経過を理解し、患者と家族の解釈や受容段階に合わせた、適切な病状説明ができる。
- ・ 意思決定支援の枠組み、バイアス、侵襲性を理解し、患者と家族の解釈を聞き出すことができる。
- ・ 認知症患者の BPSD 対応、今後の医療や介護方針についての意思決定支援ができる。
- ・ がん終末期の在宅患者への緩和ケアと終末期への意思決定支援を提供できる。
- ・ 非がん疾患終末期の在宅患者への緩和ケアと終末期への意思決定支援を提供できる。
- ・ 在宅における臨死期の対応ができる。

【フェローの課題と評価】

評価は、形成的評価として指導医による On the Job Assessment に基づく EPAs や多職種、患者からのフィードバックを行い、総括的評価として、360 度評価及び、以下のポートフォリオおよび症例レポートによって行う

① On the Job Assessment および EPAs の内容については別途に定める

② 在宅診療のポートフォリオ

- ・ ポートフォリオは、在宅医学会の専門医受験用ポートフォリオに準じる。老年医学、緩和医療学、内部障害・小児・障害者、在宅医療の諸相、生物・心理・社会モデル、社会保障制度の理解、患者中心の医療と家族ケア、チームアプローチ、臨床倫理・意思決定の支援、在宅医療の質改善、地域づくりの 10 領域から 15 のポートフォリオ作成を行う。
- ・ 記載する内容は、単なるケース記録ではなく、医師としての判断や介入の結果など自身の在宅医としてのパフォーマンスが伝わるように作成すること。
- ・ 一例報告でも可能であるが、単なる症例報告ではなく、ケースに対する主治医としての判断や関わりが十分に伝わるようにきさいすること。患者背景を踏まえたゴール設定、原疾患の治療経過、機能訓練の経過と最終成果、転記について記載する。在宅カンファレンスを通じた、フェロー自身の省察が含まれる事が望ましい。
- ・ 15 のポートフォリオ中には、テーマとして認知症、疼痛管理の 2 つが必ず 1 つずつ含まれること。
- ・ 書式は A3 用紙 1 枚とする

③ 在宅症例レポート

- ・ 在宅診療で主治医として診療を行った 30 症例の報告を行う。主治医とは、診療の半分以上をうけもち、
- ・ 治療方針を決定した医師と定義する。
- ・ 30 症例の中に、①がんの在宅緩和ケア、②認知症を含む高齢者ケア、③神経難病・内部障害・小児若年障害者の 3 領域 (①②③) をそれぞれ 3 症例以上含むこと、在宅看取り症例を 3 症例以上含むこと

【教育方略】

＜教育コンテンツ＞

①オリエンテーション

- ・ 研修カリキュラムの説明:教育目標, 教育方略, 研修課題と評価についての情報提供.
- ・ 一般的な診療のローカルルール, 電子カルテ使用方法についての情報提供.
- ・ 往診の準備, 実施, 処方, 各種指示書, 意見書などについての情報提供

②後方病院医師, リハビリ医師からの指導

- ・ 搬送患者に対するフィードバック
- ・ 入院時多職種回診(基本動作, 嚥下スクリーニング, サルコペニア, CGA7 などの評価), 嚥下造影検査の同行見学, 実地指導, ならびに修練後の実施
- ・ ICF レクチャー, ICF カンファレンス

③多施設連携, 多職種連携

- ・ 在宅カンファレンスの実施, 相談対応, 病状説明などへの同席
- ・ 電話連絡, 連絡ノート, 各種指示書, まめネットや MCS での情報共有
- ・ 訪問看護や訪問リハの同行見学
- ・ 退院前カンファレンスへの出席

④ On the Job Training

- ・ 在宅訪問診療, 往診の実践
- ・ 外来での在宅カンファレンス, 指導医との症例振り返り
- ・ セミナーでの症例振り返り
- ・ 地域での健康活動の実践

<研修中の duty>

- ・ 外来・在宅患者の診療を行い、診療所における家庭医療の実践.
- ・ 検診業務, 予防接種などの実践.
- ・ 状況に応じて週 1-2 単位の病院科外来診療, 救急外来診療を行う.
- ・ 学生, 初期研修医, 他職種の教育を行う.
- ・ 週 1 回の家庭医療セミナーに参加し, 家庭医療・総合診療専攻医教育を行う.

<オプション研修>

空いている単位に, 検査研修や他診療科単位研修(眼科, 耳鼻科 等)を組み込む選択肢もあり.

<週間スケジュール例>

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前	外来	訪問診療	自習	外来	病院外来	外来 (隔週)
午後	訪問診療	病院救外	訪問診療	カンファレンス	訪問診療	
時間外			家庭医療セミナー			

※空きコマに病棟診療やオプション研修の実施

【処遇】

- ・ 大曲診療所常勤医師として採用し, 給与・賞与・諸手当等は法人規定に従う. 当法人は育児支援制度(時短勤務や時間有給の取得), 院内保育園も有している.
- ・ 社会保険は, 健康保険, 厚生年金保険, 雇用保険, 労災保険, 医師賠償保険に加入しており, 法人の共済会による各種助成制度もある.
- ・ 研鑽に対する支援として, 学会・研修会参加に関する補助は年 2 回まで, DynaMed 購読料に対する補助を行う.
- ・ 当直及び待機業務は院内規定に従い従事する.

【応募方法】

受付窓口: 出雲市民病院・出雲家庭医療学センター事務局 足立祐貴

〒693-0021 島根県出雲市塩冶町 1536-1 出雲市民病院

TEL: 0853-21-2722 FAX: 0853-21-8101

E-mail: igakusei.icfm@izumo-hp.com

【参考文献】

- 1) 内閣府. 平成 30 年版高齢社会白書.
<https://www8.cao.go.jp/kourei/whitepaper/w-2018/html/zenbun/index.html>
- 2) 川越正平. “在宅医療の現状と課題.” 日本内科学会雑誌 103.12 (2014): 3106-3117.
- 3) 日本在宅医学会専門医制度, 制度全体の解説 <http://www.zaitakuigakkai.org/k-senmon.html>

本パンフレットの著作権は出雲家庭医療学センターに帰属します。
無断転用を禁じます。

Copyright (C) 2019 The Izumo Centre for Family Medicine All Rights Reserved.